

沖縄女子短期大学児童教育学科「社会福祉」（1年生）授業実践報告

上原, 健二
沖縄女子短期大学児童教育学科 : 准教授

<https://hdl.handle.net/2324/4798350>

出版情報 : オンライン授業の地平 : 2020年度の実践報告, pp.19-19, 2021-04-30. 雷音学術出版
バージョン :
権利関係 : Creative Commons Attribution-NonCommercial-NoDerivatives International

1. 授業の目的と概要、授業内容、成績評価の方法等

本授業は保育士資格取得のための必修科目で、開講時期は1年前期である。社会福祉の理念や価値、法制度やそれに基づく諸サービスの概要及びソーシャルワークの基礎を概観することを目的としていた。

講義形式をとり、第1回から第4回にかけて導入として社会福祉を理解するための基本的な価値観や理念を学び、第6回から第7回にかけて理念を形成してきた歴史を学びつつ、現在に通じる制度の枠組みの成立過程を時系列で概観し、第8回から第14回にかけて現在の法制度、第15回にソーシャルワークの基礎を学ぶことを計画していた。評価については学期中の複数回の小レポートと学期末の期末試験を予定していた。

しかし、4月2日にすべての授業をオンライン授業とする決定がなされた。ただし、受講生の機器及び通信環境の状況確認が十分ではなかったことで当面は動画配信を避け、Google Classroom を活用したデータによる教材配布が推奨された。

本講義ではレジュメ及び資料を PDF 形式で作成して Google Classroom にアップロードし、学生はダウンロードしたデータを各自で印刷または画面上で確認しながら学習を進めた。個別の質問は Classroom を介した E-mail で対応した。各回の授業内容の理解を評価する目的で、毎回、内容に応じた小レポートや選択式の問題など、複数の回答形式を組み合わせた課題の提出を課した。その際、個人で所有する機器がスマートフォンのみという学生が自宅で資料を印刷できない場合を想定して、毎回の学習状況の確認はすべて Google Forms を活用することで、一連の受講をスマートフォンで完結できるように配慮した。沖縄県独自の緊急事態宣言の解除を受けて、5月21日より学年ごとに隔週での登校が可能となり、週ごとに遠隔授業と面接授業が交互に行われることになった。それに伴い、予定していた授業計画を変更した。具体的には、遠隔授業時に次回の面接授業の内容も含めて予め資料を提示することにより、学生は個々で事前に学習しつつ、次週の面接授業では2回分の授業内容のポイントを整理して解説する構成に変更した。対面にて予定

していた期末試験は8月1日の2度目の沖縄県独自の緊急事態宣言により急遽レポートに変更されたことで、評価方法も急遽見直した。

本授業は新入生を対象としており、短期大学での学習の見通しが立ちづらく、学生同士が孤立した環境で不安感が強いことを想定して、授業の導入で提示する資料の文章は平易で対話調を意識した文体を用いた。また、授業内容の特徴から、コロナ禍の生活不安も題材とすることで、学生自身が当事者として社会福祉を理解する姿勢を促すことを心がけた。

2. 今後の課題・可能性、もしくは受講生の反応等

学期途中の授業計画の見直しにより、授業回によっては情報量のバランスを欠く状況が生じ、受講生の負担大を招いたことは今後の課題として捉え、見直しが必要である。また、通信環境への配慮から、映像資料の提示が面接授業のタイミングに限られたことで適切なタイミングで活用できない場面もあったことも今後の改善点である。

通常、対面で行われる授業では受講生の反応をその都度確認して説明を補足したり、質疑に対する回答がすべての受講生に容易にシェアできるが、オンライン環境ではリアルタイムでのレスポンスが困難で、全体での情報共有にも限界があった。しかし、質疑への対応においては E-mail で質問を送信する前に学生が熟考できる状況を保証し、かつ、すべての資料が Web 上に残されていることから、遡って授業内容を確認することも可能となった。Web 上のデータは欠席した学生への対応にも活用でき、学生・教員双方にとって受講生の学び直しがしやすい環境となったものと考えられる。